

## アート・アーカイブズ概論

授業科目名	アート・アーカイブズ概論	単位数 2 単位
英語標記	Introduction to Art Archives	
授業コード	360207	
受講人数	30 人程度	
担当教員	久保田 徹、要 真理子、高橋 晴子	
対象	全研究科大学院生、全学部学生、社会人（10 名程度）	
開講時間等	第 2 学期＝火曜 6 限（10 月 5 日～）	
開講場所	豊中キャンパス：大学教育実践センタースチューデントコモンズ 2F セミナー室 1、学外実習：国立民族学博物館	
キーワード	アート、情報科学、アーカイブズ、アーカイブ化、ドキュメンテーション、文化力、企画力	
授業の目的	アートを通してアーカイブ化／ドキュメンテーション（収集、整理、加工、記録、保存、提供）に関する情報科学の方法論を学ぶことを目的とする。もの（休眠中の資料を含む；コンテンツ）の情報化に際して必要な知識の習得とその実践を行うなかで、潜在する不特定多数の人々とのコミュニケーションのスキル獲得を目指す。すなわち、この知識を活用することによって、アピール力をもつアーカイブ化/ドキュメンテーションを実践する能力、その結果生成された情報を不特定多数の人々に活用してもらえる「しかけ」を作り出す（需要の開拓）能力を養成する。	
講義内容	この授業における「アーカイブ化／ドキュメンテーション」とは、とくに博物館・美術館・美術図書館が所蔵する作品・資料に焦点をあて、これらを情報化し提供するための情報管理全般を指している。授業では、「アート」を例にアーカイブ化の方法論を紹介するが、それらは「アート」以外のコンテンツや領域にも十分に応用できるものである。（下記は授業の流れによってフレキシブルに追加・変更する可能性あり）	
	<ul style="list-style-type: none"><li>・導入： プロジェクトからアーカイブズへ</li><li>・アート・アーカイブズの歴史的検証と参考図書理解</li><li>・「アーカイブ化／ドキュメンテーション」とは何か</li><li>・アート・アーカイブズの現状分析</li><li>・知的財産権について</li><li>・インターネットにおけるアーカイブの状況</li><li>・アーカイブ化（記録・情報管理）のための基礎知識と実践（学外実習）</li><li>・アート・アーカイブズの需要を高めるために</li><li>・その他</li></ul>	
教科書	授業時に適宜紹介する。	
参考書	授業時に適宜紹介する。参考 URL も授業時に適宜紹介する	
成績評価	平常点（50％）とレポート（50％）による評価	
履修条件・受講条件		
その他	※受講生たちがこなす課題のうち、内容の充実しているものは、学会ニュースレター『アート・ドキュメンテーション通信』に掲載予定。 ※由緒正しい記録史料のみならず、Wikipedia と百科事典との違い、動画共有サイト、ホームビデオなどにも言及しながら、アーカイブズや「アート」をアーカイブ化することの意義を確認していく。	

### 「アート」を記録・活用する??プロジェクトからアーカイブズへ

「アート」や社会構造の変質に伴い、「アート」は自律した作品や技術というよりもむしろ創造（企画／設計）から鑑賞（受容）までの活動全体に関わる「プロジェクト」として認識されることが多くなった。これらの「アート」が記録され、あらたに有効利用されるために、あるいは将来文化遺産としての役割を果たすために、「アーカイブズ」の知識が必須であることを確認する。

### 特殊な史料－「アーカイブズ」について

「アーカイブズ」とは記録史料のことであり、また記録史料を取り扱う機関そのものを指している。しかし、博物館・美術館・美術図書館における「アーカイブズ」とは、古文書や公文書だけではなく、写真・絵葉書・チラシ・ポスターなどの非図書資料、作品記録、展覧会記録、さらにはこれらのコレクションをも含んでおり、その範囲は広い。

### 単なる記録とは異なる－「アーカイブ化／ドキュメンテーション」

「アーカイブ化／ドキュメンテーション」とは、アーカイブズ資料の収集・整理・加工・記録・保存・提供にかかわるプロセスを総括した情報管理全般にかかわる概念である。

### なぜ、今「アーカイブ化／ドキュメンテーション」が必要なのか？

アーカイブ化／ドキュメンテーションの最終目的は、時間を超えて、人々が情報共有を図るための理論を構築し、実践することである。とくに 21 世紀にはいり、美術館・博物館では、情報公開法の制定、独法化の波にさらされ、すべての作品・標本・資料の公開を迫られている。一方、個人情報保護法の成立にともなう問題も無視できない。このような状況下で、現在の美術館・博物館は、モノそのものへのこだわりから、情報の世界に視野を広げる必要性に迫られている。また、美術館・博物館が情報サービスを通して、いかに不特定多数の人々とコミュニケーションを図るかを真摯に考えなければならない。加えて、美術図書館の役割もあらたに位置づける必要があらう。

なお、アートを通してであるが、アーカイブ化／ドキュメンテーションについて考え、実践しておくことは、IT 化を伴う国際社会における情報のあり方や情報共有に関するリテラシーも、同時に身につけることができると考えらる。

### 「アーカイブ化／ドキュメンテーション」の意味、機能、歴史、現状について考察しよう！

・美術館、博物館におけるアーカイブズの歴史を、展示やカタログを通して検証する。また、西洋美術史を中心とする事典・辞書、および二次資料などの基本的な知識を修得する。

・国内外の美術館・博物館の所蔵する各種メディア（作品、標本資料、図書資料、写真、映像など）のアーカイブ化の現状を、インターネット上のデータベースおよびデジタルアーカイブを通して、分析を行う。

### アーカイブ化（記録・情報管理）のための基礎知識と実践、可能性

・美術館・博物館が所蔵する各種メディアのデジタル化を前提として、資料の目録化やメタデータに関する知識、検索項目や検索語に関する知識、および各種メディア間での情報の共有化、さらにはインターネット上での各館の情報の共有化に関する知識を習得する。また、現場支援業務やプレゼンテーションの実践を行う。

・再構築された情報を活用してもらうための「しかけ」をどのように作り出し、実際にどのように「しかけ」でいくかについて、具体例を交えながら紹介する。